

# 「オリジナール」

(第十二回)

先日、文化の森の21世紀館で私は役者を演じ、拍手喝采を浴びた。俳優になったわけではない。演劇ワークショップに参加したのである。ニールサイモン作の父親

役を、私は端正な語りとかっこよい仕事で演じたところ、「阿波弁のひょうきんな演技で個性的」とのコメントを頂いた。

的確な指導をするのは、脚本・演出家の内藤順子先生。東京で演劇活動を行い、徳島の劇団〔WITH〕で子供達に歌と踊りを教えている。このたび、子供の個性に合わせたオリジナル作品「21世紀へのマーチ」が、全国ミュージカルコンクールでベスト3に選出された。大人の劇団ばかりの中で、まさに快挙！4月には3劇団が宝塚市で入賞記

念公演を行う。ストーリーは子供達がお互いに友人を思いやり成長していく物語。私は実際に公演を観たが、生き生きとした彼らの表情が印象的だった。

さて、20世紀の日本を振り替えると、経済性が重視され個人よりも組織が優先された。今や21世紀。人々の関心は、社会の発展や成長から個人の健康・娯楽などに移った。しかし、個人主義がはき違えられ勝手主義がまかり通っている。

このままでは日本の将来が不安だ。今後、若者に求められるものは、知能指数(IQ)よりもむしろ感情指数(EO)。基本的ルールやマナーを遵守し個を尊重しあいながら、21世紀へのオリジナルの技を追求して欲しい、などとタップダンスを踊る子供達を見ながら考えていた。

(徳島大学附属病院内科医師)

## 健康のススメ

板東 浩